

環境検討部会（第8回）議事概要

1. 日 時：令和2年2月25日（火）14：00～15：30
2. 場 所：思川西部土地改良区 会議室
3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事概要

本部会で検討した内容は、（1）今後進めていく事項、（2）今後検討・確認する事項に分けて整理する。

（1）今回決定した事項

◆次年度の生物調査計画について

（委員）

次年度の生物調査は、工事施工前の状況に把握するため西清水川排水路及び西部幹線排水路において事前モニタリング調査を実施する。また、新荒川排水路においては、工事施工後の状況を把握するため、事後モニタリング調査を実施することとする。

◆水生植物の移植について

（委員）

新荒川排水路の平成30年度施工区間を対象に、今年度の移植結果及び有識者からの意見を反映した手法とした上で、次年度に改めてナガエミクリの移植及びモニタリングを実施することとする。

◆環境配慮対策について

（委員）

次年度の工事区間に係る環境配慮対策については、今年度の検討（開口部の設置）を基本とし、今後は水路の構造計算等を行うことにより具体的な対策とし、次年度の環境検討部会において確認することとする。

（2）今後検討・確認する事項

◆生物調査の結果の整理について（委員）

水深や水草等の生息環境の情報については、過年度との比較等が容易にできるようにグラフや写真で整理するとよい。

（委員）

魚類相の評価には、個体数と種数を組み合わせた多様度指数を用いることを検討された

い。

(委員)

「当該水路で成長した個体を確認した」との評価は、体長分布のみでは必ずしもそうとは言いきれないので、慎重な判断を行うこと。

◆水位の連続データについて

(委員)

魚類相の変化には、今回の台風や排水の迂回等、物理的な環境による影響もあるため、水位計を設置して連続したデータを収集し、雨量と水位との関係を整理しておいた方がよい。

◆地域全体の生物相の把握について

(委員)

本地域の特徴として、外来種が少なく魚類相にほとんど変化がない調査結果等を踏まえると、思川や渡良瀬遊水地との魚類の往来がほとんどない閉鎖的な環境であると考えられることから、田んぼの生き物調査の結果等を活用して地域内全体における生物相の特徴を把握・確認してはどうか。

◆次年度の生物調査計画について

(委員)

今年度調査と来年度調査の調査地点のナンバリングが異なるので、混乱を招かないよう整合を図ること。また、水系の異なる西部幹線排水路については、別のナンバリングを行うこと。

(委員)

西部幹線排水路の最下流の地点は、過去の調査で多くの魚種が確認されているため、次年度の調査地点に加えることを検討されたい。

(委員)

工事の影響や環境配慮対策の効果を検証することは非常に困難なことであり、この確かさ、蓋然性をどこまで高めていくのかというところがこの調査のポイントとなる。

◆次年度の水生植物移植計画について

(委員)

底質の保護対策には、不織布やポーラスコンクリート等、他の条件も検討してみてはどうか。

(委員)

集水樹等の底質保護の際は、魚類の生息に配慮し、碎石ではなく水路内にある砂利等の粒径の小さいものを使用してほしい。

(委員)

ナガエミクリは、下流に向かって根を伸ばし、そこに新芽があるので、根を切らないようスコップではなく手を使って下流側から掘るようにして採取すべき。